

睡眠時無呼吸症候群とは？

「昼間眠たくなって…」それ、**睡眠時無呼吸症候群**かもしれません！

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中に無呼吸になることで、身体が酸素不足になります。

その結果、**日中に眠気**が出て、**作業効率が落ちて**しまいます。車の運転中に突然意識を失うような睡眠に陥ると事故につながり日常生活に影響を及ぼすことがあります。

また、脳卒中や心臓病と関連があるといわれています。



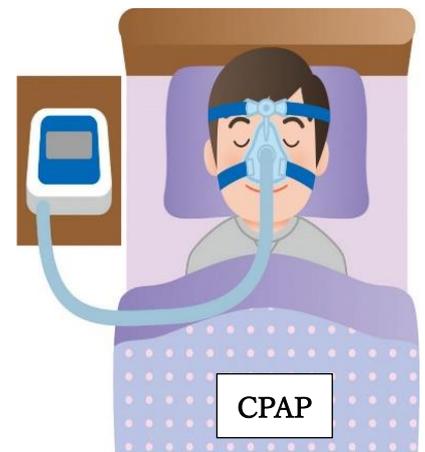
睡眠時無呼吸症候群の検査と治療

睡眠時無呼吸症候群の検査としては自宅で行える**簡易検査**(**簡易睡眠時無呼吸検査**)、1泊2日の入院で行う**精密検査**(**ポリソムノグラフィー検査**)があります。(※詳しい検査方法は裏面をご参照ください。)

患者さんの状況などに応じて検査を進めていきます。治療は持続的陽圧呼吸療法(CPAP)で、マスクを装着し、接続した機械から空気の圧をかけます。治療により症状の改善や、脳卒中や心臓病の予防を目指します。

当院では2種類とも検査可能で、治療の導入から定期的な通院による管理まで行っています。

「寝ているのに眠気が取れない」、「いびきをかいていると言われた」、「仕事上、睡眠時無呼吸症候群かどうか知りたい」などあれば、気軽にご相談ください。

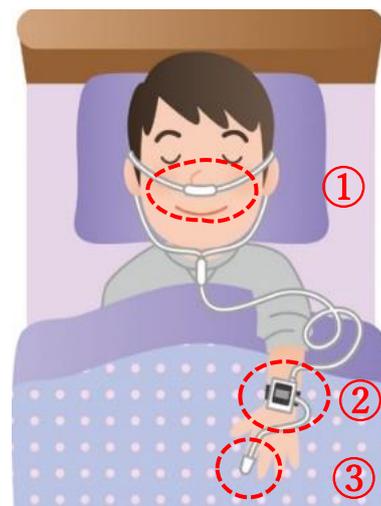


簡易睡眠時無呼吸検査（簡易 SAS 検査）

自宅に検査装置を持ち帰り、ご自身で機械を装着後、就寝していただきます。

- ① 鼻にカニューレと呼ばれるチューブ
 - ② 腕に記録機付きのゴムバンド
 - ③ 指に酸素濃度を測定するため酸素飽和度センサー
- を装着するだけの簡単な検査です。

この検査では、睡眠中の無呼吸や低呼吸の回数(AHI)、血中酸素飽和度などの評価ができます。



- 翌日午前中に機械を返却いただく必要がありますが、入院などを必要とせず気軽に受けていただけます。

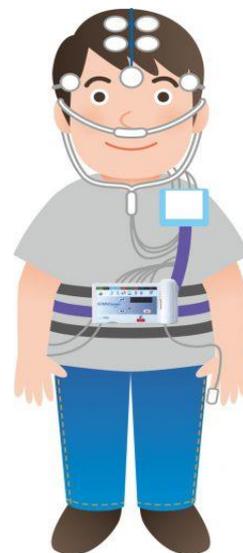
ポリソムノグラフィー（Polysomnography : PSG）

簡易 SAS の結果で SAS を疑う時に施行される精密検査です。

1泊入院が必要となり、当院では検査当日 15 時までに入院していただきます。

入院当日 16 時 30 分から翌日 6 時 30 分まで測定機器を装着します。頭・顔・体・指にたくさんのセンサーを装着しますが、トイレや室内であれば多少動くことも可能です。

この精密検査では、低呼吸の回数(AHI)や血中酸素飽和度に加えさらに脳波、眼の動きあごの動き、胸腹部の動き、体位を見ることで無呼吸のタイプ(閉塞型・中枢型・混合型)の判断が可能となり、睡眠の質がわかります。



当院では呼吸器内科・耳鼻科・精神科等様々な診療科で検査を受けていただけます。
「もしかして睡眠時無呼吸症候群かな？」と思った際には、ぜひ一度主治医に相談してみてください。